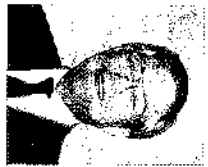




ふるさと応援団として
 県民総力戦に参加しよう！
 在京宮崎県人会会長 日 高 啓



会員の皆様、ご家族の皆様にはお健やかにお過ごしのこととお慶び申し上げます。
 わが国をはじめ、世界中の政治・経済が大きな変革期を迎えております。ご存知アメリカの大統領選においても変革を訴えるオバマ氏が若者をはじめ、各年代層に強く支持されています。
 さて、わが「ふるさと宮崎」では東国原県政が二年目を迎えました。私達の期待をはるかに超える知事活躍の波紋は満一年たった今日、さらに地方行政の枠をこえて全国的なうねりとなりつゝあります。おかげで「わが宮崎」は日本で最も有名な県となり、県民としては嬉しい限りです。
 たゞ、東国原県政はこれからまさに正念場を迎えようとしています。公約をどう実現させていくか。産業をどう発展させて行くか。赤字財政をどう建て直すか。

宮崎県知事 東国原英夫



在京宮崎県人会の皆様には、郷土宮崎と東京を結ぶ架け橋として、本県発展のために何かとお力添えを賜り、心からお礼申し上げます。
 さて、我が国が時代の大きな変革期を迎える中で、本県が着実に発展を遂げ、他の地域をリードする存在となるためには、前例にとらわれない柔軟な発想による果敢な挑戦と情報発信が重要であります。
 こうしたことから、私はマニフェストの実現に向けて、人札・契約制度改革をはじめとする県政改革の推進や、本県の将来を描く総合計画の策定等に努めるとともに、本県を国内外に積極的にPRしてまいりました。

かつて在京県人会として建設大臣に陳情した東九州高速道の実現など問題山積です。
 「県民総力戦」にこたえて私達県外の県人會も、ふるさと宮崎の発展のために、どうしたら力になれるか、真剣に考える時だと思っております。

さて昨年の秋の総会は東国原知事も出席され参加者に、眞剣に考える時だと思っております。
 皆様のお知恵をぜひ拝借したいと思います。
 在京宮崎県人会の年に一度の楽しい集いです。皆様、奮ってご参加下さい。
 県人会の活動については県東京事務所の皆さんとの緊密な連携のもと役員の方々の皆さんのボランティア活動によって精力的に推進されています。
 一昨年発足しました「活性化委員会」も三年目に入り、着々と成果をあげています。
 また、在京の「市町村会」「同窓会」との連携を強めるため、県東京事務所と在京宮崎県人会と共催で

日大勢の方が来訪され、さらには「どげんかせんといかん」という宮崎の方言が流行語大賞を受賞するなど、全国的に宮崎が注目されている状況にあります。
 しかしながら、今の宮崎チームが、未来永劫続くこのチームをいかに高止まりで維持させ、「チームから定番・定着化」を図っていくかが大事であります。
 そのような意味で、今年は、まさに正念場であり、本県の真価が問われる年ではないかと考えております。
 こうした中で、平成二十年度当初予算につきましては、財政改革を推進しつつ、存在感のある自治体、オンリーワンの宮崎を目指す「宮崎再生推進予算」として編成したところです。
 特に、「中山間地域・植栽未済地対策」、「子育て・医療対策」及び「建設産業対策」につきましては、重点的に推進すべき施策と位置付け、地域におけるコミュニティビジネスの創業支援や植栽未済地への

一昨年発足した「在京宮崎郷土人会」は昨年は九月に開催、実に四十二団体の代表者が出席され皆さん活潑に意見を發表されました。今後お互いの交流を更に進めて行きたいと考えております。

出来ればこの「在京宮崎郷土人会」四十二団体を中心に「ふるさと宮崎訪問団」が実現できたら本当に嬉しいなあと思っております。
 「在京宮崎県人会」の運営にあたっては、多くの方々のご協力、ご援助を載いております。
 毎回ご協賛載いております各社様並びに常日頃ご協力いただいている県東京事務所の皆様には心から御礼申し上げます。
 会員の皆様、今年も元気でおいししましょう。会の運営、その他御意見がありましたら遠慮なく私宛、もしくは青藤事務局長宛にお寄せ下さい。お待ちしております。
 宮崎県出身

再造林の推進、乳幼児医療費の助成対象の拡大、さらには技術と経営に優れた建設業者が伸びている環境づくりなどに取り組むことといたしました。
 このほか、戦略的なPR施策の推進や企業誘致活動の充実強化を図るなど、「経済・交流の拡大」や「豊かな暮らしづくり」、「人づくり」にも一層力を入れることとしております。
 私は、今後とも、宮崎の良き、優れた潜在能力を最大限に引き出しながら、県民誰もが安心して暮らせる新しい宮崎の実現に向けて、県民総力戦による県づくりを推し進めてまいりたいと考えております。
 皆様方におかれましては、今後ともふるさと応援団として、宮崎県の発展のため、温かい御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げます。
 終わりに、在京宮崎県人会のますますの御発展と、会員の皆様の御健勝と御活躍を心からお祈り申し上げます。
 宮崎県出身



敬神崇祖ということ

松木 國利

「敬神崇祖」この言葉をほとんど耳にしない。いま、この語を口にしたら「古い」といわれるだろうし、「何それ」と聞かれるかも知れない。しかし、この言葉の本源はものへ感謝するという事だ。思う。

もので、感謝する心を育つことは人間として最も大切なことである。悪いやりであり、誠にあり、住み良い社会の根柢をなすものだと思ふ。が、この心が、現代社会では次第に稀薄になってきていると考えるのは、私の思い過ごしであろうか。

先日、茂原からの帰りに東京行快速電車に乗った。グリーン車は二両連結だが、その前後部に八人または十二人が利用できる区画があり、私はいつもその八人席を利用している。たまたま、そこが清席だったので十二人席に乗った。そこは片側二人掛け三席づつがある。私は進行左側二列目に座った。前に一人客がいた。右側には三列目に大柄の若い男が足を大きく開いて座っていた。

大柄から三、四才の男児の手を引き、乳児を抱いた若い母親が乗り込んで私の後ろの席に座った。暫くすると私の座席を後ろから叩いたり押したりが始まった。男児が私のシートを相手に進んでいるのだ。私は背中をぐっと押されたり、トントンと刺激を受けたりだんだん不愉快になってきたが、子供のことだし、そのうちに母親がたしなめるだろうと思って我慢していた。しかし、母親は何の注意もしない。子供の押したり叩いたりは一向にやまない。千葉で右側参列目の若い男が下車して、右側はずべて空席になった。そこで私は「右の席に移ってください」と後の母親に要求した。なぜ私からそう言われたのか理解できない様子で、母親は低びの一言も発しないまま親子で席を移った。

子供が、前の乗客に迷惑をかけているのが分らなかったのかも知れないが、母親たるものが子供の行為に気付かない害はない。それを承知の上で子供のことだからと、わが子中心に考えていると言わざるを得ない。そうしているうちに終点東京に着いた。私の脇を通りながらその母親は「子供を連れて乗ってはいけ

ないんですか」と抗議するように言った。この発言に一瞬驚いたが、私は「誰もそんなことは言っていない。子供の行為に迷惑した。親として済みませんでしたと謝るのが本当じゃないか」と強く言った。母親はふくれづらして降りていった。

自己中心、他人への迷惑などまるで考えない。こんな母親は決して珍しいことではないと聞くと、日本の将来に暗澹たる思いがする。

いまこそ「敬神崇祖」、ものへ感謝する心を持つことの大事さを自覚すべきではないか。そう自分自身に問いかけている。



故郷忘じがたく候 高山 弘憲

故郷官帖を思うとき、胸裏に浮かぶいくつもの言葉がある。そのひとつは司馬遼太郎の佳作「故郷忘じがたく候」である。作品は隆興庵僧侶の出家家である高僧さん一族の数奇な運命を描いたものだが、このタイトルがいくつしか内容を離れて独り立ちし、ふるさとを離れてこの地に生きる私の半生を支えてくれた感がある。どんな逆境にある時も故郷の風物、その人々を思うことで勇気を得、通きあがる多謝の気持ちたちが混沌の中で灯となってくれた。ふるさととはそのようなものであるかと今更ながら思う。

今ひとつは「エクセルシア」という標語だが、これは母校日南高校の伝統として長く掲げられているものである。「エクセルシア」の語源は「高い」を意味するラテン語の比較級で、「より高く」ということであろうかと思う。十六世紀以来、この言葉が爆発的に使われたのは英語の母国イギリスではなく、独立間もなアメリカにおいてであった。ニューヨーク州では日の出の図案と共にこの標語が州章とされ、詩人口ングエロロイが同名の詩を発表し、商品や街の名前にも採用された。国づくりの情熱に燃える若き国家が、常に前進を続けよう、向上しようという願いを込めたこの言葉は、故郷で過ごしたかつての日々同様に今も私の心の中で異彩を放ち続けている。

三つ目には「振徳精神」をあげたいと思う。

私の郷里、日南市飲肥はその昔飲肥藩の居城があり、小村寿太郎侯をはじめ幾多の英雄を輩出した振徳堂を藩校としてきた国柄であった。振徳堂は、儒教の精神に基づく徳を振るわせ、文武両道を鍛えることによって武士道精神を涵養し、幕末維新の難局に処してきた。この精神が、昔ながらの石垣や武家屋敷が立ち並ぶ端正な飲肥の町並みの中にいつも息づいていたように思う。

私は現在警備会社を経営しているが、千代田区に存する本社屋内に藩校の名に因んだ道場を構え、心身を鍛える手段として杖道を持って朝に夕に社員諸君とともに稽古に励んでいるのは、こうした日本の良き伝統である武士道精神の継承を期していることには他ならない。私事で恐縮ながら、今年の十月で当社が四十周年を迎えるにあたって、安心・安全な社会の実現のため、ますます公に奉仕する使命感の涵養に資したいと念願している。

わが宮崎県は、昨年就任された東原知事のご活躍によって全国的に脚光を浴びているが、宮崎グラウンドの二層の浸透や、豊かな自然・神話や伝統芸能など独自の地方文化を擁する豊潤な観光地としてオトリワンの地位の確立を目指す知事の活躍を、私もともとしても積極的に支えて生きたいと思う。

最後に、会員の皆様のご健康とご活躍を衷心よりお祈り申し上げます。



「散歩考古学 東京の中の宮崎」イラストライターの松本こーせい

私は取材・イラスト・文章を手掛けるイラストレーターで、近年は主に「東京散歩」を手掛けています。といっても私の場合は、名所旧跡を羅列するだけの散歩ガイドではありません。なぜ？どうして？と好奇心の赴くまま、土地の来歴を糸口に時代の歴史に立ち至る、「散歩考古学」を提唱・展開しているのです。これは、「歩いて愉しむ大江戸発見散歩」(アーク出版)を出版する際、出版社が私の手法を「時間の地層をめぐって歴史を紐解く『散歩考古学』だ」と命名したもので、本書では次のように説明しています。「部内を歩いていると、気になるものに出会うことがあ

土地の記憶とでもいえるべき気配や佇まいだ。なぜそれがそこに誕生し、または消えていったのか。関東大震災、戦災、再開発で大きく様相を変えてきた東京の街も、その上を覆う時間の地層を掘ると、まちの成り立ちが顔を覗かせ、時代の仕組が見えてくる。それが「散歩考古学」である。」

翌年には散歩考古学の原点である、雑誌連載の「なぞのスポット東京不思議発見」(山海堂)が単行本化。これらの著書は朝日・毎日・東京・中日新聞や「歴史読本」「散歩の達人」ほかで紹介され、読売新聞には「散歩考古学」の見地から江戸と東京を結ぶ細い糸を手繰り、巨大都市の歴史に埋もれた一面を明かす」と評されました。名古屋のCIB(中部日本放送ラジオ)は、拙著をもとに「大江戸歴史散歩」を放送。三時間スタジオ生出演しました。また現在「発展途上」IIC(A国際協力機構で、拙著をもとに「発展途上」を放送。三時間スタジオ生出演しました。また現在

国時代の東京のインフラ整備」の講義をしています。宮崎日日新聞にも幾度も紹介して頂き、宮崎でも何か題材はあるかと問われて生まれましたが、「散歩考古学 東京の中の宮崎」で、昨年末まで二年間隔で再掲載しました。これは江戸東京における日向国宮崎県人の足跡を発掘するもので、東京から見た宮崎再発見とでもいえるべき試みです。著名人から多分存じない人物までを取り上げ、余り知られていない話を紹介しました。歴史の大舞台東京の中に、宮崎県人の知られざる足跡があることを知れば、見慣れた東京の街の風景も、感慨深いものに見えてくることでしょう。

この連載は宮崎日日新聞社から、四月に単行本になる予定です。単行本用に原稿に手を入れ、構成もエリアごとにしましたので、散歩のお供にご活用頂ければ幸いです。また昨年は、宮崎県総合博物館の「日向国の江戸時代展」に協力し、日向諸藩の江戸藩邸所在地の資料を提供(宮日連載記事も展示されました)。少しはふるさとのお役に立てたかなと思っています。

今年六月からは、東京新聞に全国都道府県人の東京での足跡を辿る「東京ふるさと散歩」を毎週連載の予定です。今後も東京と宮崎で散歩考古学を展開したいと思ひますので、直しくご教示下さい。

(HP「江戸東京散歩考古学」を参照下さい) 岡田明恵



私の県人会・市人会 同窓会について

河野 泰士

私が故郷の宮崎を離れ、大阪での六年を経て、都圈に移り住み始めたのは昭和五十八年からですが、初めて在京宮崎県の総会に出席したのが、その八年後の平成三年の十月でした。そのときにお会いした小林市出身の宮崎彬さんから昭和初頭に発足した伝統ある在京県人会である「一金会」を紹介され、翌年の平成四年四月にその「一金会」に初めて出席しました。その後、毎年、年四回ほど会がありますが、ほぼ欠かすことなく出席しています。その出席者の大半は六十代、七十代の大先輩ですが、当初は河野澄夫さんが世話役をされ、元代議士の瀬戸山三男さんがほとんど欠かさず出席されていたらしいと思います。出席のたびに故郷の偉大な先輩達からのパブリックコメントをもらっていることが、欠かさず続いている理由だと思っております。

また、県人会といえば、一金会でお会いした新富町出身で千葉県八千代市在住の一行詩の絵手紙のエッセイストである瀧下むつ子さんから私が八千代市の隣市である佐倉市に住んでいることもあって、平成十六年六月に初めて開催された八千代市周辺宮崎県人会である「日向かぼちゃの会」に誘いを受け出席しました。現在では会員数は約四十人で、六月に総会、十一月は少年サッカークラブの応援を兼ねた忘年会の年一回開催されています。

市人会では、同じく一金会でお会いした宮崎市東京事務所の当時の所長であつた谷口康吉さんから宮崎市の広報誌に「東京からこんにちは」という特集を組んでいるので寄稿しませんかと誘われ、平成十一年六月の宮崎市広報誌に寄稿しました。それがきっかけとなって平成十一年十一月にその寄稿者の交流会が開催されました。会の名前も「どげんしちよった会」と命名、その後、東京事務所の所長も高校の先輩の柳瀬俊典さん、都城出身の久保三男さん、高校の同級生の河野善見君と経て、現在は、高校の先輩の蛇原茂さんで、その事務局となっています。現在の代表世話人はデュークエイセスの谷道夫さんで、私もいつしか世話人の一人となり、佐土原町、田野町及び高岡町との合併を機に会の名称も「在京

宮崎市人会」と改称され、今では年一回程度の開催頻度となっています。

私の同窓会といえば、母校である宮崎南高校の東支部総会で会った同級生の土屋了介君から、八回生だけの同窓会をしているので出席しないかと誘われ、平成十六年一月に初めてその同窓会に出席しました。その三十二年振りで大変懐かしく思いました。その構成人数は約二十人で、当初は年一回でしたが、現在は年二回の開催となっており、幹事は仕事柄首都圏の飲食店情報に豊富な知識とコネを持っているサポロピールの杉垣隆文君がほとんど引き受けており、開催場所は恵比寿、銀座、赤坂、丸の内等のお店です。

以上のように私にとっては県人会、市人会及び同窓会は生活の一部になっており、欠かせない存在となっております。



新宿みやざき館

お蔭様で十周年 日 高 大 介

平成十年三月二十日。この三月でちょうど十年の節目を迎えました。

発足以来、在京宮崎県人会の皆様には、ひとかたならぬご協力、ご支援をいただいてまいりました。無事に十周年を迎えることができたのも、これまで支えていただいた皆様のお陰であり、この場を借りて篤く感謝申し上げます。

昨年は、東国原知事就任に端を発した宮崎ゲームの影響もあって、当館で買い物をされた方が延べ五十二万人弱、前年比で約一・八倍となるなど大きな進捗を見ましたが、今年はこの数字を高い水準で下げ止めることが求められる試験の年となりそうです。

この四月からは、館長を公募により民間から迎えるなど、新たな取り組みも始まりそうです。新たな十年を輝かしくするために、一層の努力をしてまいりますので、引き続きご支援をよろしくお願い申し上げます。

(編集企画課長)

「こんな」話「あんな話」 冠する命名権

◆財政再建案の二環として、公共施設にスポンサー企業名を冠する命名権

県は、自主財源率を三割台。そこで、東国原知事は昨年策定した財政再建案に、県関連施設の命名権を盛り込んだ。第一号として、県立芸術劇場（宮崎市）の命名権を売り出し、今月、同県が発祥の地の医療機器メーカー「メデアクイット」（本社・東京）が二千万円で三年間取得することが決まった。（東京新聞二十年一月）

◆NHK全国短歌大会シニア部門で太賞受賞（本県初）

日向市坪谷小学校一年の富山海部（七歳）君の作品「きのうはねしゅくだなくて大はしやぎ サッカーボールもはすんでいたよ」全国からの応募三四八九点の頂点に立つ太賞三點の一つ。牧水の母校である坪谷小では週に一度、短歌を作る「牧水タイム」や授業などで短歌に親しんでいるという。富山君自身が詠んだ受賞作の録音テープと、本人の映像が流された東京NHKホールでの短歌大会の模様は、二月三日NHK教育で放映された。

◆第十四回「弓削野島子短歌文学賞」表彰式が日向市で

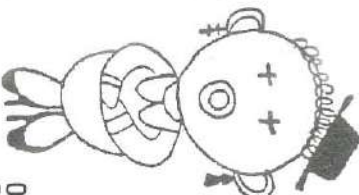
産経新聞主催により、「若山牧水没後80年記念事業」として、六月二・三日にわたり開催され、表彰式・選評会・歌会、ほかの行事が執り行われる。式典には、篠弘、永田和宏、馬場あき子、河野裕子、伊藤一彦、今野寿美、尾崎左水子、各氏の顔が揃う。詳しくは、六月上旬の産経新聞に掲載される。

◆高子穂高校剣道部（佐伯浩美監督）

同校剣道部の名は全国に響き渡っている。情熱を注ぐ佐伯監督。また、剣道部保護者会や町民の力強い支援も頼もしい。保護者会主催による一月恒例の錬成大会には、秋田から熊本までの五一校約一七〇人もの高校剣士が集ったという。

- ### 「同校剣道部の成績」
- （十九年）十一月・第四九回宮崎県高校新人大会（宮崎市）男子団体優勝（二年連続二〇回目）／女子団体優勝（五年連続一八回）男子個人優勝／女子個人二位 十二月・第二四回若潮旗杯争奪武道大会（千葉県勝浦市）女子団体三位
 - 第一五回大野旗争奪剣道大会（和歌山市）女子団体優勝
 - 第三回大牟田市剣道連盟会長旗争奪高校剣道大会（大牟田市）男子団体二位
 - （二十年）一月・第七回宮崎県選抜剣道大会（宮崎市）男子団体優勝
 - 女子団体三位 二月・第二四回九州高校選抜剣道大会（名護市）男子団体準優勝 三月・大勢島旗争奪高校剣道錬成大会（霧島市）女子団体三位（三月十五日現在）
- ### ◆2008年宮崎出身プロ野球選手
- ▽野野大輔（近国学院、楽天）
 - ▽福良淳一（近国工高、日本ハム）
 - ▽木村拓也（宮崎南高、巨人）
 - ▽赤田将吾（日南学院、西武）
 - ▽寺原卓人（日南学院、横浜）
 - ▽西村徳文（福島高、ロッテ）
 - ▽人來祐作（PL学園、横浜）
 - ▽青木宣親（日向高、ヤクルト）
 - ▽神内 靖（近国学院、ソフトバンク）
 - ▽下園辰哉（宮崎日大高、横浜）
 - ▽藤岡好明（宮崎日大高、ソフトバンク）
 - ▽本田原隆太（都城工高、ソフトバンク）
 - ▽井手正太郎（日南学院、ソフトバンク）
- （朝日新聞・日刊スポーツ新聞・東京新聞選手名鑑）

「古里の味さがし詠らざがし」 新橋 バグ&スナック ニアオーレ



「JR新橋島森出口。この地に二四年前開店したという高岡町出身・首・藤ヒロ子さん（旧姓・柳脇）の店。ふくよかなマツさんに似て店内はおだやか。宮崎弁をキツカケに、「あんだもそーねえー」と、客土の会話は盛上がり、歌やかけ声で賑わう。カウンタ―に盛られた時節の生花が心優しい様子をかもす。▲月曜・金曜・七時〜翌一時／土曜・日曜・祝日（定休）



《編集後記》

▲古里は賑わっているようだ。このゲームをいかに高止まりで維持させ、「ゲームから定着・定着化」を図って行くかが大事と東国原知事。日高会長も、「どうしたら我々はふるさと発展の為に力になれるのかを真剣に考えよう」と熱く語る。▲誰もが、ふるさとの発展を願っている。が、具体的にとなると、自分ができるようなかたちで役に立てるのかと考えあぐんでしまう。▲しかし、こんなお手伝いだってあるような気がする。ある在京高校同窓会のお土産に、古里から取り寄せたお茶が配られた。持ち帰り飲むその香りに、幼き頃の食卓や芽吹き始めた里山の風景が想い出され、会場で味わった古里と二度の嬉しさを頂いた気がした。▲決して他人事ではない、自分自身の原点である古里の今を知る事も大事だと思う。十周年を迎えた新宿みやざき館KONNEに、その様子を垣間見る事が出来る。増殖された郷土の産品や各市町村の案内パンフレットなどに古里を再認識。古里人の「カンバリ」が見え、こちらにも元気をもらう。▲在京宮崎県人会の他に市町村人会、同窓会がある。先ずは身近なことから……。 （権現山）